

■情報イノベーション学部

観点	学部・学科	情報イノベーション学部	情報エンジニアリング学科	共創社会システム学科
豊かな「知識」		・情報工学、データサイエンス、人工知能(AI)技術の理論を理解し、環境・エネルギー等の社会課題への応用を含めて、分野横断的な知識を体系的に修得している。	・数学、統計学、情報理論、プログラミングなどの基礎に基づき、情報の構造、処理、伝達、制御に関する理論と方法を体系的かつ実践的に理解するとともに、技術の進展や多様な応用領域に柔軟に対応できる基盤的な知識を備えている。	・統計学や情報工学などを活かしつつ、経済・経営・心理・環境といった領域の視点から社会課題について考えるための基礎知識と、資源循環などの社会システムの設計・評価といった応用領域を学び、社会と情報技術の関係を俯瞰的に理解している。
知識を活用できる「技能」		・データ収集・分析・可視化、システム開発などを通じて、情報技術を社会課題の解決に実装・応用するための基本的な技能を身につけている。	・情報システムの設計・開発から、データの利活用、人と機械の連携、ハードウェアとソフトウェアの統合的な制御に至るまで、情報技術を実社会に応用するための基礎的かつ実践的な技能を身につけている。	・データサイエンスや人工知能(AI)の活用を通じて社会課題を定量的に捉え、社会構造を論理的に整理・分析し、情報倫理に配慮した新たなテクノロジーを応用するための実践的な技能を身につけている。
次代を切り開く「思考・判断・表現力」		・実社会の複雑な課題に対して、デザイン思考を活用し、データに基づいて論理的に分析・判断したうえで、創造的かつ持続可能な価値を構想・表現できる。	・情報技術に関する学修を基盤に、実社会の課題に対して人間中心・社会価値志向の視点から創造的に思考し、データや技術的根拠に基づいて論理的に判断し、課題解決に資する製品・システム・サービスのかたちで具体的に表現できる。	・データに基づいて社会課題を論理的に抽出し、デザイン思考を活用して持続可能な価値の創出を見据え、自らの考えを創造的に表現できる。
組織や社会の活動を促進する「コミュニケーション力」		・異分野・異文化との協働や地域との連携において、多様な視点を整理・統合し、課題解決に向けた提案や発信を行うことで、持続可能な社会づくりやGX (Green Transformation)の実現に貢献できる。	・異分野・異文化との連携において、情報技術を駆使しながら協働し、グローバルな視点と情報倫理を踏まえ、多様な立場を尊重しながら、自己の考えを適切に発信できる。	・社会的な課題に対して、異分野・異文化と連携しつつ、情報技術を駆使しながら協働し、地域とグローバルな視点および情報倫理を踏まえ、多様な立場を尊重しながら、自己の考えを適切に発信できる。
社会で生きる「自律的行動力」		・変化の激しい社会・技術環境に柔軟に対応し、自律的に学び続ける姿勢を持ち、データとAIを活用して持続可能な未来を構築するための社会実装力を備えている。	・情報技術の進展に柔軟に対応し、自己学習を継続しながら、持続可能な社会の構築に向けた探究心と社会実装力を身につけている。	・社会や環境の変化を捉えて自律的に学び、課題を主体的に設定し、理論と実践の往還を通じて持続可能な社会や地域との共創に貢献する力を身につけている。

8 入学試験の主な変更点等について

入学試験の主な変更点等については、本学ホームページをご覧ください。

大学ホームページ <https://www.kitakyu-u.ac.jp/entrance-exam/faculty/modification.html>

